

綾瀬発・釜石応援プロジェクト



本会では、東日本大震災の被災地である岩手県釜石市を応援するため、昨年度2回「ボランティアバスパック」を実施。今年度「綾瀬発・釜石応援プロジェクト」を3カ月ごとに4回実施してまいりました。

このプロジェクトは、震災2年目に私たちが今できることは何かということを生協の持つネットワークを生かし、賛同いただける市内の団体にお集まりいただき、企画から実施までを一緒に行ってきました。

また、市内の事業所にも御協力をいただき、食材等の御提供もいただきました。

活動内容は、現地の栄養士と連携を図りながら、仮設住宅における栄養バランス改善事業を行う「釜とらちゃんの青空給食」と、がれきの撤去や海岸清掃など現地のニーズに基づく活動を2つの班に分かれて行いました。

さらに実際の被災現場に立って、被災者の話しを聞く「青空講演会」も併せて実施しました。

プロジェクトメンバー（順不同・敬称略）

綾瀬青年会議所 綾瀬アカデミー 綾瀬市商工会青年部 JA さがみ綾瀬地区青壮年部
あやせ災害ボランティアネットワーク 市民活動センターあやせ ブタッコリ～推進委員会
(株)タウンニュース社綾瀬編集室

食材等提供（順不同・敬称略）

東罐興業(株)厚木工場 (株)高座豚手造りハム 秋本食品(株)エムケーチーズ(株)
東京キリンビバレッジサービス(株)大和営業所

協力機関（順不同・敬称略）

かながわ県民活動サポートセンター かながわ金太郎ハウス NPO ハンズ(岩手県)
釜石市社会福祉協議会

PRイベント

平成24年 8月24日 綾瀬いきいきまつり
平成24年10月28日 あやせ福祉ふれあいまつり
平成24年11月18日 綾瀬市商工フェア
平成24年12月 8日 街頭キャンペーン(綾瀬タウンヒルズ)
平成25年 3月 3日 綾瀬市民活動フェスタ
平成25年 3月10日 津軽三味線コンサート

協賛金 個人21件 団体8件 企業・事業所4件
協賛金合計 934,792円



第1期 平成24年6月29日（金）～7月1日（日） 参加者29名

給食班：定内（さだない）仮設団地（50世帯）クリームシチューうどん



作業班：がれきの撤去作業



青空講演会：鶴住居（うのすまい）小学校跡



今年度初めてのプロジェクト。仮設住宅には釜石市社協の管理栄養士も来ていただきました。初めて食べるクリームシチューうどんに皆さん興味津々。「とても美味しい」と言っていたいただき、たくさんの方々に集まっていたいただきました。

作業班は、がれきの撤去に汗を流し、依頼主の方から聞いた津波の話に驚がくしたものの、心温まる差し入れや感謝の言葉に皆さん心打たれていました。

青空講演会においては、バスの中で津波が押し寄せてくる映像を見ながら同じ場所を走行し、改めてこの出来事を風化させてはいけないという感想が多く寄せられたことが印象的でした。

第2期 平成24年9月28日(金)～30日(日) 参加者40名

給食班：野田中央仮設団地（43世帯）冷製五彩そば



作業班：B1（ビーチ）プロジェクト支援（海岸づくり）



青空講演会：唐丹（とうに）小学校跡



二回目の青空給食は、夏の食中毒が懸念されることから「冷製五菜そば」を作りました。自治会長さんを中心にとっても仲の良い皆さんで、たくさんの感謝の言葉や「また是非来てください」という温かい言葉もいただき、とても深く交流を図ることが出来ました。

釜石唯一の海水浴場が壊滅してしまったため、作業班の活動は未来の子供達のために、失われた海岸を対岸の地に作る地元のプロジェクトへの協力でした。掘り起こせばまだまだがれきが出てきて、長期間の支援が必要です。

青空講演会では、「てんでんこ」の伝えを守り、一人の犠牲者も出さなかった小学校跡地で話しを聞くことが出来ました。改めて教育の重要性を知ったひと時でした。

第3期 平成24年12月14日(金)～16日(日) 参加者28名

給食班：洞泉（どうせん）雇用促進住宅（80世帯）クリームシチューうどん



作業班：がれきの撤去作業



青空講演会：（雨天のため）市内巡回



一泊目の金太郎ハウス（神奈川県が東日本大震災支援ボランティアのため遠野市に建設した無料宿泊施設）は雪、釜石では終日冷たい雨が降る悪天候でした。青空給食を行った場所は、公営住宅の空き部屋を被災者に提供する「みなし仮設」と言われる団地で、比較的若い世帯が多く居住されていました。自治会も組織されていないため、大勢の方が居住していますが、十分にコミュニティが形成されていない実態を目の当たりにしました。

作業班は津波ではなく、地震による家屋の大規模損壊によって取り壊した後、畑にするためのがれき撤去を行いました。激しく降る雨の影響により1時間足らずで作業を中止せざるを得なくなり、参加者の皆さん方は大変残念がっていましたが、依頼主の心配りが大変温かく、皆さん感動していました。

青空講演会も雨天のため、外でのお話を聞くことは出来ませんでした。その分長い時間をかけて津波の被害に遭った箇所をバスで回り、改めて津波の恐ろしさと、力強く生きる住民の方々の努力を強く感じる事が出来ました。

第4期 平成25年3月15日(金)～17日(日) 33名

給食班：大松（おおまつ）地区（甲子町第9）仮設団地（130世帯）クリームシチューうどん



作業班：ブイの移動



青空講演会：鶴住居（うのすまい）防災センター跡地



今年度最終となった第4期目は、今まで1泊目に宿泊をしていた金太郎ハウスが閉鎖したため、夜行で現地に行き、着いてすぐに作業に入る非常にハードなスケジュールとなりました。釜石の朝夕の冷え込みは強く、青空給食を実施した仮設団地は、釜石市の一番山側の非常に風の強い山の中にありましたが、たくさんの方々に来ていただいて交流することが出来ました。

作業班は、津波で打ち上げられた漁具のブイが竹やぶの中に集められていたものを運び出し、対岸の地に運ぶものでした。大変な作業でしたがとても貴重な経験をする事が出来ました。

また、青空講演会では、多くの犠牲者を出した鶴住居（うのすまい）防災センター跡にて鎮魂の祈りを捧げた後に、今回4回ともお話しをくださった釜石市社協元事務局長矢浦さんが、震災当日の様子や復興の状態などを話され、皆さん真剣に耳を傾けていました。改めて多くの犠牲者を出した大震災であったことを忘れてはならないことを強く心に刻みました。

東日本大震災から2年が経ちました。街からは瓦礫がほぼ消え、新しく建て直した家が点在している一方、その隣に解体されることなく建っている家屋や基礎部分のみ残っている様子を見ました。また一面何もなく、ただ雑草だけが生い茂る場所をいくつも見ると深く刻まれた傷跡はまだ消えることが無いのだろうと感じました。

さらに、仮設団地で生活している多くの方々はたくさんの困りごとを抱え、先の見えない不安な毎日を送られていることを目の当たりにしました。

そして、この実態が風化していくことを肌で感じると、まだまだやらなければならないことはたくさんあると痛感します。

私たちに出来ることは本当に小さなことですが、被災された方々や復興のために懸命に頑張っている多くの方々が笑顔になれるよう、平成25年度もプロジェクト第2弾を展開していく予定です。

被災地に行って出来ること、綾瀬にいても出来ることがたくさんあります。これからもどうぞ皆様のお力をお貸しください。

最後になりましたが、参加された方、ご協力をいただきましたすべての方に心からの感謝を申し上げます。

綾瀬市社会福祉協議会

